

2004.9.26 河北

社説

「みやぎ政策の風」

「いま〇〇が面白い」という
コピー風をまねて言つと

「いま自治体の行政サービス
・アイデア競争が面白い」

インターネット上で各県や市
町村のホームページが花盛り
だ。地元を超え全国相手にアク
セス数を競つように構成やメニ
ューに知恵比べがあり、週ごと
日ごと内容が進化し
ている。

これは知事や市長
らトップの自治体経
営感覚の変化と実績に対する自
信を示している。

バブル崩壊後、国は時代のト
レンドを読み誤りデフレ回避に
公共投資を拡大する旧来型政策
を続けて七百兆円に上る財政赤
字を積み上げた。政府組織の整
理も遅れ、小泉純一郎首相によ
る「改革」も中途半端だ。
一方、地方も国に引きずられ

て財政難が深刻化した。意欲
的なトップは自治体経営を劇的
に変え、新しい芽を育てた。

巨額補助で企業を誘致、雇用
と税で元をとる地域振興で成功
した三重県、情報公開を先導し
た宮城県、教育委員会廃止案な
ど組織を徹底スリム化する埼玉
県志木市、予算に住民費望を直

結させた北海道ニセコ町の試み
などは広く知られた例だ。

二〇〇〇年四月施行の地方分
権一括推進法は国と地方の「対
等」をうたった。地方の実績は
この理念の具体化だ。意欲的な
地方トップは国の指導を超え、
国を政策でリードした。

地方側のこうした自信は国の
補助金をなくし税源を地方に移

す三位一体改革をめぐる先月の
全国知事会の議論でも示され
た。省庁の権益調整が丸投げさ
れた難題を受け、三兆二千億円

の削減案をまとめあげた。対立
は激しかったが採決後は「地方
が国の予算作りに絡むことがで
きた」と勝利感さえ漂った。

また、見やすい形では岐阜県
ホームページで人気の「善政競
争・平成の関ヶ原合戦」が好例
だ。全国自治体の最新施策を登

録式で紹介、インターネット利
用者の人気投票をベースに「合
戦功名賞」を選び表彰する。

県政展開に自信がなくては作
れないメニューだ。その知事は
初めて自分から手を挙げ全国知
事会長になった梶原拓氏だ。

しかしいわゆる改革派自治体
トップによる政策競争は数値目
標や評価制度の導入、マニフェ

スト（検証できる選挙公約）採
用などの普及で、アイデア勝負
の段階はすぎたとされる。

今は「政策立案能力」がキー
ワードだ。特に県は国対地方で
は地方を代表するが、県対市町
村では攻められる側だ。それだ
け職員も研究が必要になる。

宮城県が今春「みやぎ 政策
の風」を発刊したのもこの流れ
だろう。先日第二号が出た。
初号「知的障害者の地域生活
移行に内在するコン

「善政競争」負けない気概で

フリクト」、二号「地
方分権下の宮城の社
会資本整備と今後の

展望」などの論考は、県事業の
問題認識や目的を実証的に説明
し読み応え十分。この内容でラ
ーメン一杯より安い四百五十円
は研修資料としても買い得だ。

「みやぎの風」を県内へ、東
北へ、また全国へ伝えたい。
執筆した職員を講師に知事も
入る自由参加の勉強会を開く工
夫などもあっていいと思う。